

「 オーストラリアの干ばつと謙信の塩 」 ( 協同組合通信/井戸端論弾 )  
平成 19 年 2 月 19 日

シドニー1月28日AFP時事通信は、オーストラリア国開闢以来という干ばつの影響が、ついに住民の命の源である飲料水に及んできたという今日的なニュースである。

同国北東部クィーンズランド州政府は、断腸の思いで、**下水を飲料水用にリサイクル処理するかどうかを問う住民投票を取りやめる**と発表した。

それほどまで、今回の**エルニーニョの影響**は凄まじく、**昨秋から継続している干ばつ**は収まる気配が見られず、オーストラリア国民の食生活と水問題の根本的な見直しになっている。

農業大国をもってしても、かつて経験したことのない自然の猛威になす術がない。結果、我が国との友好関係を台無しにする可能性があるF T A貿易問題にまで急展開している。現実には、同国の農業と地域に与える影響は深く重い。農民の圧力で、州も連邦政府もなりふりかまっていられないのが実情だ。我が国の関係者は、その点をしっかり理解して議論し対応する必要がある。

クィーンズランド州では、下水を飲料水にするしかないというのが結論である。もはや、住民にその是非を聞いている時間的余裕などない。事態は深刻な状況にある。

一昨年春から梅雨前と昨年秋以降、我が国でも四国や九州で水不足が連続して発生している。他人事ではないのだが、瑞穂の国の恩恵に安堵している。即ち、一個の台風で水がめがあふれる僥倖があり、住民も75日たてば渴水の大騒ぎを忘却し、反省もなく水の浪費を繰り返す。

地球温暖化防止の大義と民間外交の出番である。何故、九州四国の民は、途方に暮れている友好国の住民のために率先して立ち上がらないのか。かの国の問題は対岸の火事ではない。そのうちきつい天罰がないとは言えない。情けは人のためならず。

オーストラリアとの友好維持のため、今こそ同国の乾いた大地に、民間に伝承されている**井戸掘り技術やノウハウを提供**して欲しい。

**信玄と謙信の故事**にある。貿易交渉の筈旗で氣勢を上げるより塩を送る時だろう。これが実現できれば、F T Aの軋轢も解消し、厳しい局面大転換の1歩を踏み出すと確信している。

( 気象情報システム株式会社 高津敏 )